

サラさんの問題

〜教育を受ける権利〜

数年前、サラさんという発展途上国の少女の1日の生活をとり上げた、ユニセフの広報がテレビで放送されていました。算数の問題のようになっていたので考えてみてください。

サラさんは、起きている時間の半分で家の手伝いを、残りの3分の2の時間で妹の世話をします。6時間寝たとき、何時間勉強できますか。ただし、学校へは、歩いて往復3時間かかるとします。

サラさんが睡眠・家の手伝い・妹の世話以外に残された時間は3時間となります。学校への往復にかかる時間が3時間なので、結局サラさんには勉強する時間が無いということになります。そして、この広報は、最後のナレーションで、「この問題は本当に問題です」と結ばれています。

ここでいう「本当の問題」とは何でしょうか。それは、様々な理由で、サラさんのような学齢期の子どもが、教育を受ける権利を奪われてしまっているということです。

では、その理由とは何なのでしょうか。

紛争や内乱、治安の悪化など、平穏な生活が営めないことがあげられます。また、平和であつても、貧困のため家族を支える役割を担わなければならない、などの理由も考えられます。これらの理由は、1人の少女がどうすることもできない（それゆえ「奪われた」という）ことです。今では、この問題は単にその国の問題であるということではなく、人類全体の課題であるところから考えられるようになってきました。

教育の問題に関しては、国連が提唱しているSDGs（持続可能な開発目標）においても、17の開発目標の内の1つとされています。現在、教育を受ける機会を奪われ、読み書きがままならない人々が、世界中で何億人もいると言われています。この現状を改善するために、国際的な協力のもと、いろいろな取り組みがなされており、成果を上げつつあります。

日本でも、部落差別のために学ぶ機会を奪われた人々がいます。部落差別もまた、社会全体の問題であり、1人の力ではどうすることもできないことです。そこで、この問題の解決を

めざすために「識字学級」が生まれました。差別によって奪われた文字を取り戻すことが、差別の解消につながるようになるからです。識字学級では、部落差別のために学ぶ機会を奪われた方たちだけでなく、様々な方が共学者として一緒に学び合っています。さらに文字学習だけでなく、人権学習を行ったり、近隣の学校と交流したりしています。

また、小学生の時から、いじめ・虐待・不登校・家族の世話をする（ヤングケアラー）など、様々な事情で学校へ行きたくても行けなかった方などが学び直す場として、2017年度から「夜間中学」も始まりました。徳島県でも、2021年度から「県立しらさぎ中学校」が開校されました。

学ぶということは、人として生きるための力を身につけることであると考えることが出来ます。人として生まれたからには、「教育を受ける権利」が保障されるべき重大な権利であることは言うまでもないことですね。

市人権推進課（市教育庁舎1階）
☎ 32・21122
FAX 33・35525
Mail:jinkensuisshin@city.komatsushima-i-tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (390) 松並敦子・選

もうこれでおしまいと白き山茶花はありなしの風に地におさまりぬ

立江町 湯浅かや子

神前の楠の大木ライトアップ小さき悩み飛ばして消えた

田浦町 太田カツミ

迷い来しタンポポの種子落ちるまで夢の続きの少年でいる

金磯町 川下 年男

輪になりて食べる雑煮の餅の味手造りなればひと味うまし

横須町 福島 夢栄

老犬は脚軽やかに歩きそむ落葉の海を先へ先へと

田浦町 西 教明

我の名も忘れたフミさん庭に立ち「ああ水仙が咲いたね」と

間新田町 瀧川 益美

お正月おせち料理は嫁の役三段重箱きれいに並べ

赤石町 田原トシ子

身内みな黄泉の国より吾を囲み喜び合える初夢むなし

江田町 深田 伴子

「パパもつてる？」もう持つてないよ「えーひとり！」補助輪なしでデビューの四歳

横須町 山崎 泰子

木漏れ日を受けし千両万両の赤き実狙う百舌は賑わし

松島町 萬野 行子